

多言語標準文書処理システムの研究開発（沖電気工業株式会社）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所見	再評価	再所見
14-02	A	<p>学会発表及び特許出願は実績に相応して行われている。対象とする文書を当初予定の標準化関連の文書だけではなく、急速に普及したWeb上での文書に広げることを考慮しており、ニーズの動向に合わせた対処が進められている。本研究開発では翻訳テンプレートの質と量、ユーザからのフィードバックが重要である。これらの枠組は順調に開発されているが、実際のシステム運用でのコンテンツが十分に示されていない。運用面に対して一層の検討が必要である。既存のものとの比較において、技術的な新規性はあまりないが、システムとしての新規性はあり、全体としてほぼ計画に沿った進展をしている。</p> <p>事業化に関しては、受託企業として事業化の道筋が明確であるが、商品であるシステムの利用促進、定着のため求められる機能要件と展開シナリオの配慮が十分とはいえない。しかし、事業化に対する実績については十分であり、既に販売に向けて着手もしており、事業化体制は問題はない。収益を上げるタイミングも早めに設定しており、評価できる。</p>		